



# 今も昔も

口伝では鎌倉幕府の御家人「小室太郎」も崇敬したといわれ、江戸時代には、既に盛大に行われていたことが史料に記されている「健速神社祇園祭」。文豪島崎藤村の千曲川スケッチには、「十三日の祇園」として登場し、小諸を代表する祭りとして描かれている。今もなお、伝統は受け継がれ、今年もこの季節がやってきた。

# 暴れ 神輿の練り歩き

祭神、たけはやすきのおのみこと建速須佐之男命を祀る神輿の渡御は、総代三名、副総代三名、神輿係三十名の計三十六名で行う。神輿練りは、上下に激しく揺れ、時に白の上を回り、大量の水をかぶり、眠っている祭神を起こし、田町、本町、六供一帯を練り歩くことで、

疾病を追い払い、五穀豊穡を願う。

